

京都教育大学FDニュース

No.108

2026年2月20日

京都教育大学FD委員会

 本学におけるFD活動の一環として実施している「授業アンケート」へのご理解とご協力を感謝申し上げます。
 今回のFDニュースでは、2025年度教育学部前期授業アンケートについて、2025年度第2回FD研修会について、2025年度後期教育学部授業中間アンケート実施結果調査について報告いたします。

I. 2025年度教育学部前期授業アンケートについて

1. 調査の概要と実施状況

実施期間：2025年7月14日（月）～7月29日（火）

実施科目：受講登録者6名以上の全授業科目

対象科目数：348科目、回収科目数：310科目（全白紙6部除く）（実施率：89.1%）

実施科目履修登録者数：12,720名、回答者数：10,431名（回答率：82.0%）

2015年度前期からの実施率と回答率の変遷を図1に示します。前回2024年度後期アンケートの実施率89.4%および回答率81.4%と比べて、2025年度前期アンケートも同様の実施率、回答率だったことがわかりました。

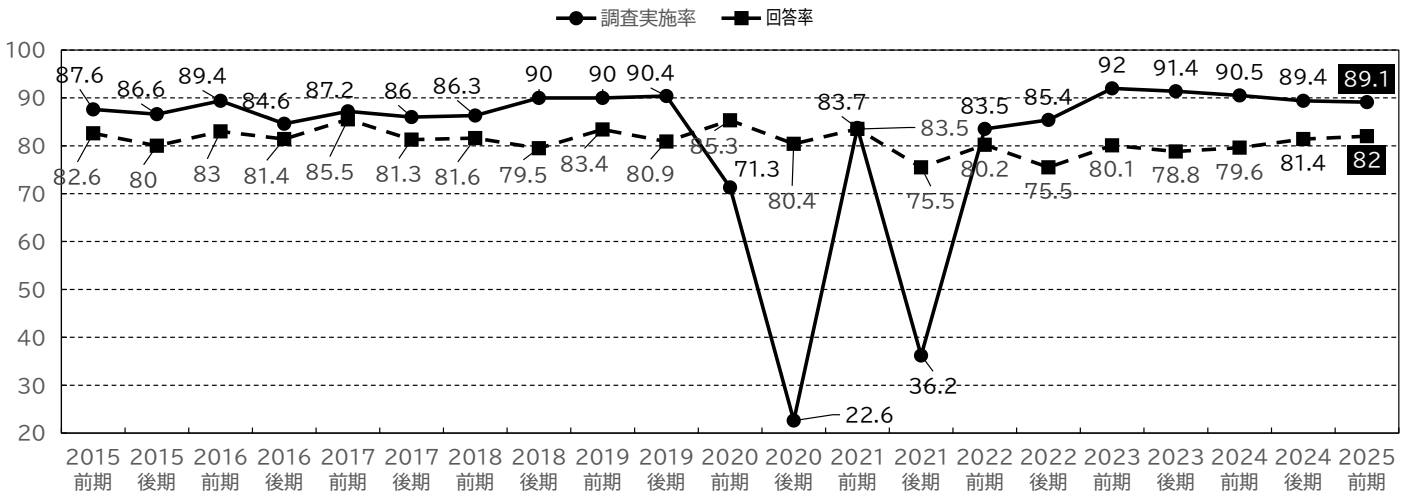


図1 授業アンケートの実施率と回答率の変遷 (2015年～2025年)

2. 結果の概要

【Q1. 授業を選択した動機】について図2に示します。当該科目を受講した動機は、「必修だから」が59.0%と最も多く、次に「興味・関心」が27.3%と続きます。近年の授業アンケートの結果と比較して、受講動機の傾向は変化していないようです。

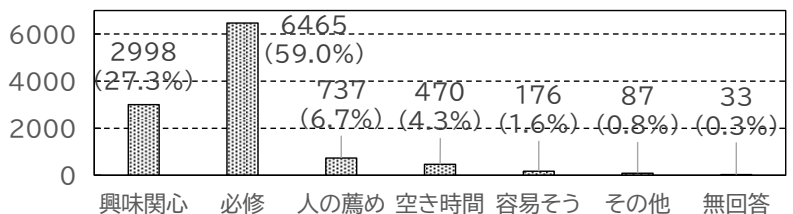


図2 受講動機の内訳 ※複数選択可能な項目のため母数を回答総数でなく回答者人数とした

【Q2 から Q15 の結果 (Q10 と Q13 を除く)】について、4 件法で回答を求めた項目 (Q10 と Q13 以外の 12 項目) の結果を図 3 に示します。濃い色の左 2 つの回答が肯定的回答、薄い色の右 2 つが否定的回答、右端の 1 つが無回答です。例年のアンケート結果と同様に概ね肯定的な回答となる傾向でした。

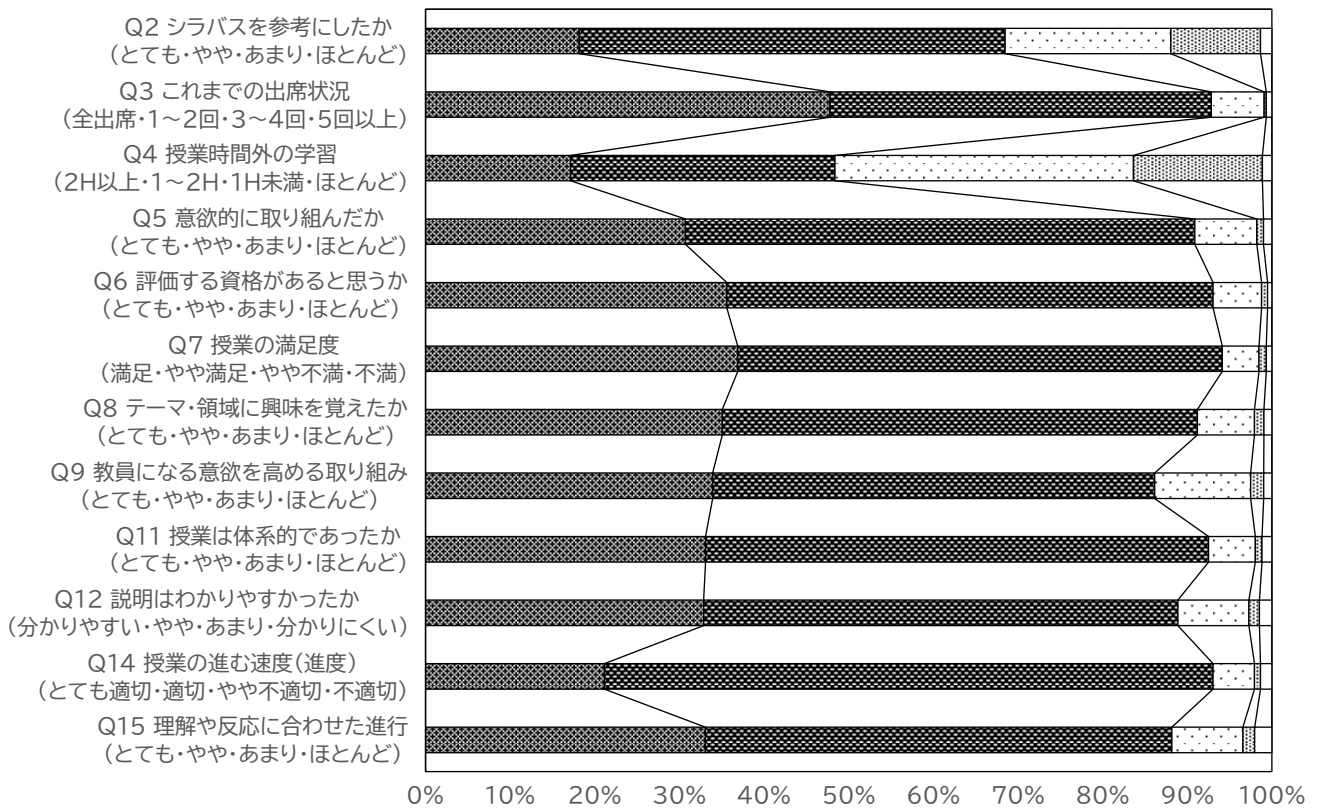


図 3 質問項目 (Q2~Q15) の回答の内訳 ※Q10 および Q13 については別図

【Q7. 授業の満足度】の項目を見ると「満足・やや満足」の回答割合は 94.1%と高い数値になりました。多くの項目で 90%を越える肯定的回答となっていますが、【Q2. シラバスを参考にしたか】では「とても・やや」の回答が 68.4%、【Q4. 授業時間外の学習】では「2H 以上・1H~2H」の回答が 48.4%となりました。

【Q10. 授業は難しかったか】【Q13. テキストは難しかったか】について図 4 に示します。この 2 項目は他の項目とは異なり 5 件法 (とても難しかった・やや難しかった・ちょうどよかった・やや易しかった・とても易しかった) で回答を求めました。「ちょうどよい」と「やや難しい」の 2 カテゴリで Q10 が 88.1%、Q13 が 91.2%の回答となりました。

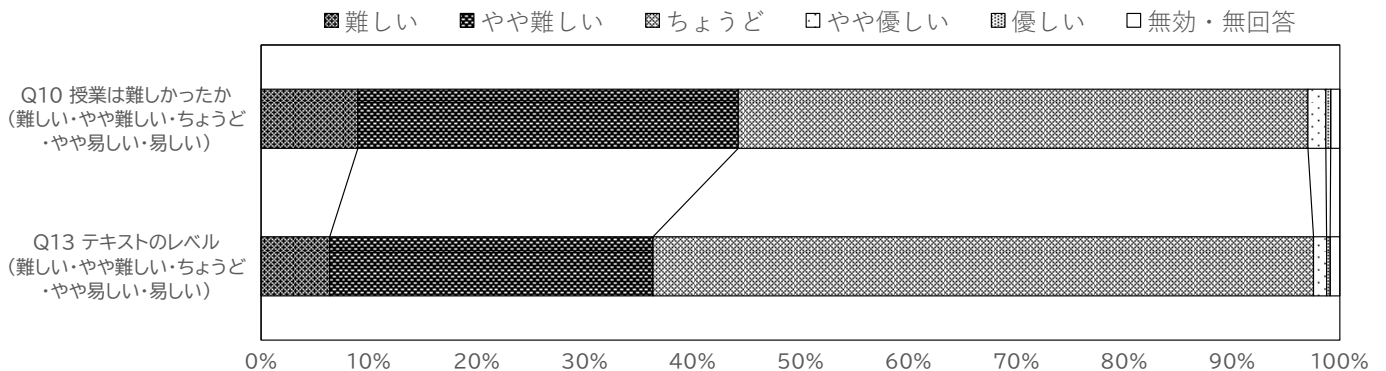


図 4 質問項目 (Q10 および Q13) の回答の内訳

【Q4. 授業外の学習時間】とその他の質問項目との関係について、2020年度前期よりクロス集計を行っています。差が見られた上位6項目の平均点をレーダーチャートにしたものが図5です。

【Q2. シラバスを参考にしたか】(0.33ポイント差)が最も大きな差が出ており、授業外の学習時間が1時間以上の学生がシラバスを参考にして学習していることがわかります。

【Q5. 意欲的に取り組んだか】(0.22ポイント差)、【Q6. 評価する資格があると思うか】(0.16ポイント差)、【Q9. 教員になる意欲を高める取り組み】(0.17ポイント差)では、わずかですが

授業外の学習時間が1時間以上の学生の全体平均が高くなっています。

【Q10. 授業は難しかったか】(0.31ポイント差)、【Q13. テキストのレベル】(0.29ポイント差)については、授業外の学習時間が1時間以上の学生の方が「難しい」「やや難しい」と回答している割合が高いことが分かります。

FD委員会では、今後も授業アンケートを実施し、授業の現状を把握し、授業向上のためのデータを検討していきたいと考えています。今後ともご協力くださいますようお願い申し上げます。

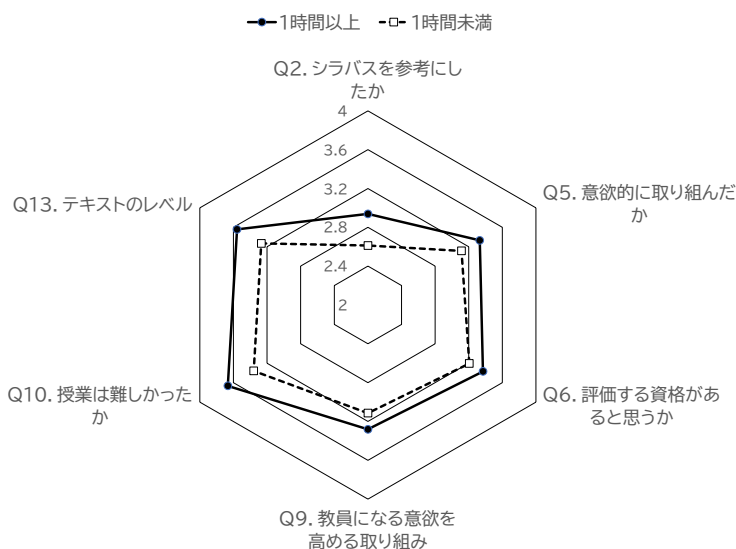


図5 【Q4. 授業外の学習時間】の違いによる平均点

II. 2025年度第2回FD研修会について

2025年9月25日(木)13:00 から13:50 に第2回FD研修会が開かれました。第2回は、「教員就職対策について」というテーマで、京都教育大学教職キャリア高度化センターの米澤武史(よねざわたけし)先生と民岡薫(たみおかかおる)先生にご講演いただきました。その背景として、教員採用試験において、3回生受験を実施する自治体が年ごとに増加していることがあります。本研修会は、3回生受験や教員採用試験の現状と本学の対策、及び、京都府の教員採用試験について、詳しくお伺いする機会として設定されました。

3回生受験の現状について、教員採用試験を実施する全国の68の自治体の内、今年は57の自治体が3回生受験を実施し、来年度は60にまで増える予定との説明がありました。殆どの自治体で3回生受験が実施されることがデータで示され、3回生受験の重みが増している様子が窺えました。また、3回生で受験した場合のメリットとして、合格すれば1次試験の一部が免除されるため、2次試験対策への時間的余裕が生じること、他の自治体との併願が可能となることその他、仮に不合格でも翌年度の受験に影響しないことも挙げられました。これらから、3回生から積極的に受験することが、受験生にとっても有利であることが具体的にわかりました。このため、3回生受験を早めに意識付けることが重要で、2回生後期開始時の個別進路面談の折に、学生に受験の意志等を問いかけて



米澤 武史 准教授



民岡 薫 准教授

欲しい旨の依頼がありました。

教員採用試験の現状に関しては、試験内容が多様化していることが強調されていました。筆記試験以外に、多くの自治体で個人面接、模擬授業、論作文の試験がある他、一部の自治体では、場面指導、集団面接、集団討論の試験があるとのことでした。このため、受験する自治体に応じた試験準備が必要であり、これまで以上に情報収集力と早期の進路決定が重要になっているとの指摘がありました。また採用試験は、教員としての資質能力をみる人物重視の選考であり、受験生には教科指導力、人間性、表現力、協調性が求められるとのことでした。学生が身に付けるべき資質能力として、大学教員としても心得ておきたい視点かと思えます。

本学での具体的な対策例として、2回生以上を対象にした、「総合セミナー」、「論作文対策セミナー」、「教職キャリア実践論」の紹介がありましたが、教員採用試験受験者数に対して受講者数が少ないとのことで、学生に積極的な受講を促す必要があるように感じられました。また、就職・教職キャリアセンターで学生からの相談を受け付けており、指導教員としてはその橋渡しをする役割を担えば良いのかと思えます。

研修会の終了後、FD委員会からアンケートの記入をお願いしました。「新しい知見が得られたか」に対して肯定的な回答は92%(59/64)、「授業等への業務に活用できるか」に対しては86%(55/64)で、学生への進路指導に大いに役立つ内容だったことが窺われます。一方で、自由記述の感想において、「個別進路面談の前に実施してほしかった」といった意見が複数ありました。後期の履修指導期間の終了が翌26日(金)であったことから、個別進路面談もほぼ終わった時期であり、折角の研修内容を生かさないもどかしさを感じられた先生方も多かったように思われます。この点は考慮すべき点として今後に生かせればと思えます。また、「来年も同様のテーマで状況を教えていただきたい」と感想にもあるように、適度な頻度で取り上げて、知識をアップデートすることが求められる研修テーマかと思われます。

Ⅲ. 2025年度後期 教育学部授業中間アンケート実施結果調査について

2025年度後期の授業担当者を対象に、授業中間アンケートについての有効性を検証するためのアンケート調査を実施しました。その結果を報告します。

1. 調査の概要と実施状況

実施目的：「授業中間アンケート」の有効性の検証

実施期間：2025年12月11日(月)から12月23日(金)

回答件数：52件 内訳：Google Form 22件(42%)、紙面 30件(58%)

→2025年度前期の実施結果調査と比較して、Google Form回答が9%増加

2. 設問に対する回答

それぞれの設問内容と回答数(括弧内の数字で表記)、結果を以下に示します。

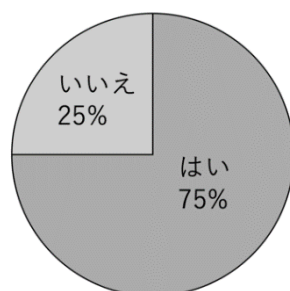
問1から問3は授業中間アンケート実施の有無、および様式に関する内容です。

問1 独自作成のものも含め授業中間アンケートを実施した。(52)

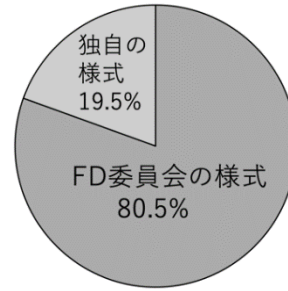
問2 授業中間アンケートを実施しなかった主な理由についてお聞かせください。(12)

問3 使用した様式についてお聞かせください。(41)

問1 中間アンケートを実施した



問3 使用した様式



問2「実施しなかった理由」の回答（自由記述）では、3つの傾向が認められました。

- ・恒常的に実施している（リアクションペーパー、ミニレポート用紙、Google Form等）（8）
- ・履修者数が6名未満のため（4）
- ・授業準備等による時間不足のため（1）

上記の回答は、過去の実施結果調査と同様の内容でした。

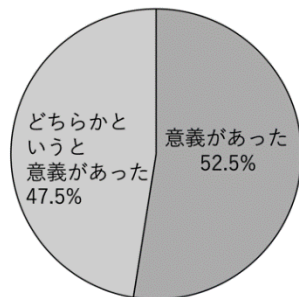
次に示す問4から問6は、授業中間アンケート実施の意義、アンケート結果の共有と活用に関する内容です。

問4 中間アンケートを実施した結果についてお聞かせください。（40）

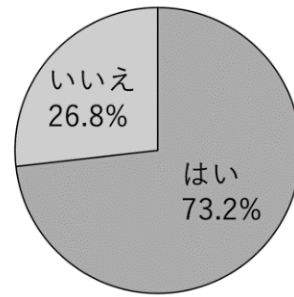
問5 授業中間アンケートについて、受講生と話し合ったり言及したりされましたか。（41）

問6 授業へ中間アンケートの結果を反映させた内容についてお聞かせください。（40、複数回答可）。

問4 中間アンケートを実施した結果について

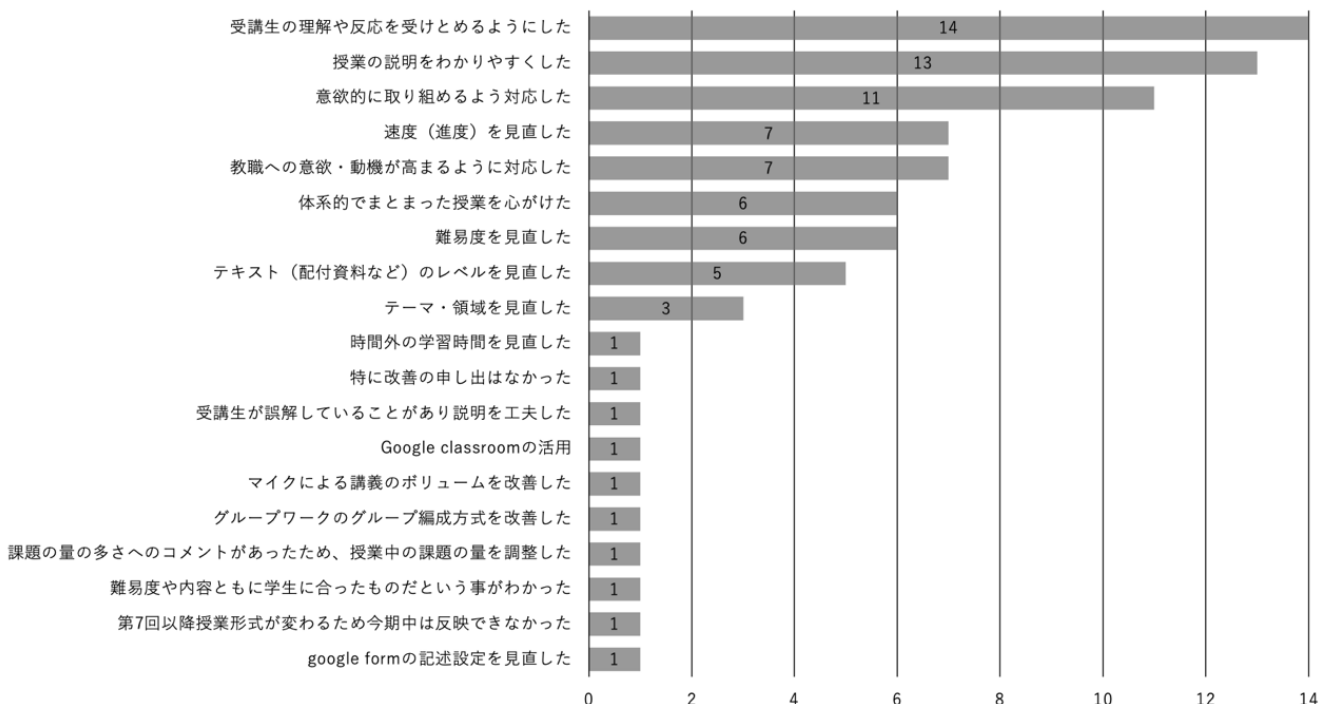


問5 授業中間アンケートの結果について、
受講生と話し合ったり言及したりされましたか



問4では、すべての回答において中間アンケート実施の意義が認められました。授業者と受講者双方にとって、より適切な方法や環境を検討する機会として、アンケートが機能していることが窺えます。

問5の回答からは、およそ7割の授業でアンケート結果についての意見交流があったことがわかりました。以下に示すグラフは、アンケート結果を授業に反映させた内容についての回答結果です。



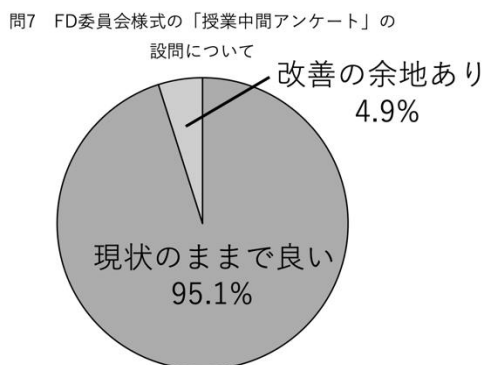
問6 授業での改善内容

回答数が多かったのは「受講生の理解、受講意欲の促進」「授業の進度、難易度、構成の見直し」に関わる内容でした。その他に「時間外学習の調整」「課題量の調整」「環境整備」についての回答があり、学ばせたい内容を受講生に伝えるために中間アンケートの結果が活かされていることがわかりました。

問7と問8は「授業中間アンケート」の設問に関するものです。設問内容と回答数、結果を以下に示します。

問7 FD委員会様式の「授業中間アンケート」の設問についてお聞かせください。(41)

問8 問7について具体的にお聞かせください。(4)



おおむね「現状のままで良い」という回答でしたが「改善の余地あり」については、以下のような意見が寄せられました。

- 「配布、回答のデータ化（結果を早く入手）」
- 「授業の出席状況の追加（教員側の問題であるのか明確にするため）」
- 「Google ClassroomからFormへ誘導した（当日欠席した学生も参加できる）」
- 「簡潔で学生も短時間で答えられる」

これらの回答からは、設問の追加、および実施方法の電子化についてのニーズが読み取れました。

3. おわりに

これまでの実施結果調査報告でも検討事項として挙げられていた「電子媒体での中間アンケート実施」は、参加する学生、実施する教員、データ整理の観点からもメリットが多く、より体系的な実施に向けて具体的な方法策定が求められていることが窺えました。2025年度前期中間アンケート実施結果調査と比較とすると、回答件数は5件減少しているもののGoogle Form回答が9%増加していました。これまで回答を得られなかった授業にも参加しやすい環境をアピールしていくことで、より実態に即したデータを得られる可能性があります。回答数の増加を目指し、様式や実施方法を今後も検討していきたいと思えます。

内容について、問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：相澤（伸）（委員長）、向井、増田、寺田、浅沼
（事務担当：山本、村田、窪田）